

# 子どもの事故予防

乳幼児は発達するにつれて、周りのものに興味を示します。でも、何が危険か全くわかりません。子どもの事故は成長発達と密接な関係があります。

子どもの事故を予防するために出来ることは**親が目も離しても安心安全な環境をつくること**です。

そして、子どもの成長（2歳を過ぎた頃から）にあわせて安全教育をしていくことが重要です。



## 成長の時期と注意したい事故

### 寝返り前（0～4か月まで）

顔や手足は上手に動かせるようになるが、寝返りなど姿勢はかえられない。とても無防備。赤ちゃんを寝かせたまま目を離しているうちに事故が起こりやすい。

#### 起こりやすい事故

- ・食べ物や吐いたものによる窒息
- ・ふかふかの布団やうつせ寝での窒息
- ・低温やけど（ホットカーペットなど）
- ・熱いミルクでのやけど
- ・チャイルドシートの未使用や誤使用による交通事故

### 寝返りできる頃（4～6か月頃）

身近にあるものを触ったり口に入れるようになる。首を持ち上げたり、寝返りをしながら移動することができる。何が危険かわからず、まわりのものにぶつかることが多い。ぶつかるなどしても泣くだけで危険を避けるための次の動作ができない。

#### 起こりやすい事故

- ・タバコや小さなおもちゃの誤飲
- ・ベッドやソファ、ベビーカーからの転落
- ・ひも、スーパーの袋などによる窒息

### おすわり・ハイハイ・つかまり立ちができる頃（7～11か月頃）

手が自由に使えるため、扉や箱を開けたりするようになる。目についた物に向かって自分で移動し手につかめるものは口に入れる。高いところによじのぼるが、おりることができない。危険なものの判断ができない。言葉で注意してもなかなか理解できない。

#### 起こりやすい事故

- ・階段や椅子からの転落
- ・浴槽や洗濯機でのおぼれ
- ・手の届く小さなもの誤飲
- ・暖房器具でのやけど

### 立ち歩きができる頃（1～2歳頃）

立って歩けるようになり、走ったりする。階段の上り下りが上手にできるようになり、うれしくなって自信がつき、戸外での活動も活発になる。手先を自由に動かすことができるようになり、大人のマネをしたがり、何でも自分でやってみたくなる。頭が大きく、重心が高いのでバランスをうまくとることができない。視野が狭く、まわりの危険を察知する能力もまだ低い。

#### 起こりやすい事故

- ・ドアに指をはさむ
- ・化粧品や薬の誤飲
- ・刃物によるけが
- ・ひとり歩きによる交通事故
- ・浴室でのおぼれ、洗濯機への転落、階段からの転落
- ・コンセントのいたずらによる感電
- ・ライター、ポットでのやけど

### 何でも一人でできるようになる頃（3～5歳頃）

運動能力が高まり、追いかけたり、高いところにのぼったり、飛び降りたりすることができるようになる。話をしたり、友達と遊ぶようになる。一度にひとつのことしか注意が向けられず、危険に対する判断はまだ不十分。

#### 起こりやすい事故

- ・飛び出しなどの交通事故、自動車同乗中の事故
- ・窓やベランダからの転落
- ・プールや海でのおぼれ
- ・公園遊具での事故
- ・ライターのいたずら

家庭内の具体的な事故予防対策については、  
子どもの事故予防ハウスで一緒に考えましょう。

子どもへの安全教育は生活の中で繰り返し伝えていくことが大切です。

#### 子どもへの注意は具体的に

子どもは「～に注意しなさい」などの抽象的な言葉は理解できないので言葉に頼らないで具体的に教えましょう。

#### 子どもへの注意の仕方

例 やけどの防止には熱いものに手を近づけて「熱い」ことを伝え繰り返し伝える